様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １０ 日現在

機関番号：２２１０１
研究種目：若手研究
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ１９１７５

研究課題名（和文）二分脊椎者への性教育プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of the sexuality education program for people with spina bifida

研究代表者
笠井　久美（Kasai, Kumi）

茨城県立医療大学・保健医療学部・准教授

研究者番号：１０７９５３３９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は二分脊椎症者の性教育のニーズのうち、性行為に関する教育の実践と評価をし、効果的な性教育の発展の一助とすることを目的とした。高校生～45歳の方を対象に、動画で性行為に関連した教育と評価をした。性教育前・直後・1か月後に性教育内容の知識、行動できるかという自信、自己効力感、自尊感情、性に関する考えや行動の変化、性教育の評価を調査した。男性20名、女性14名のデータから、今回の教育により知識と性に関する行動の変化についての自信は肯定的に変化したが、自己効力感や自尊感情を高めるには至らなかったことが示された。さらに、属性によって有意義な教育内容が異なることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
先行研究では、二分脊椎症者は疾患や障害によって性への消極性や性に対する不安や満足度、パートナーとの関係の築きにくさにつながっていることが示されていた。本研究では、高校生以上の二分脊椎症者を対象に性教育のニーズを捉え、恋愛・結婚・挙児とも関連が強く、相手との親密な関係を築く上で重要となる性行為に関する内容に焦点を当てた教育を行い、評価を行った。全体的な自己効力感や自尊感情には効果がみられなかったが、教育内容に関する知識の向上や性に関する行動の自信の肯定的な変化には効果があり、相手と親密な関係を築くことへの前向きな気持ちや性的な満足といった主観的な性の健康の向上につながる可能性が示唆された。

研究成果の概要（英文）：The objective of this study was to assess the efficacy of educational interventions related to sexual activity, which is a significant unmet need in the realm of sexuality education for people with spina bifida. Video-based education and evaluation related to sexual activity were conducted for high school students and adults under the age of 45. The study investigated the impact of sexuality education on knowledge, confidence, self-efficacy, self-esteem, change in thoughts and behaviors related to sexuality. Data were collected before, immediately after, and one month after the education. The data from 20 males and 14 females indicated that the education resulted in positive changes in their knowledge and confidence to change their behavior regarding sexuality. However, the data did not increase in their self-efficacy or self-esteem. Moreover, it is evident that the quality of educational content varies according to specific attributes.

研究分野：生涯発達看護

キーワード：二分脊椎症　性教育　ニーズ　性行為　評価

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

分娩 10,000 件あたり 4.8 である。過去 30 年間にわたり、患者発生率に減少傾向を認めず、発生率が増加しているともいわれている[1]。二分脊椎症は、開放性二分脊椎と潜在性二分脊椎に大別される。開放性二分脊椎は脊髄髄膜瘤を伴い、神経管が開放された状態であるため、生下時から膀胱直腸障害、歩行障害、水頭症、骨や関節の変形、視覚異常、ラテックスアレルギーなどが生じる[1]。これらにより、月経時の導尿による尿路感染[2]、性交時の失禁[3]、ポジショニング[4]などに課題がある。また、不妊や勃起障害[5]などが生じることもある。性への影響は、機能だけではない。障害レベルが低位の場合は、パートナーを見つけて性活動の機会を得る可能性が高く、性的にも満足していると言われる[6]。しかし、二分脊椎者の半数は性生活に満足しておらず、失禁や自己信頼の欠如（不足）が重要な障害として認識されていたという報告がある[7]。また、障害の影響により自尊心が低下することで健常なセクシュアリティの発達が阻害されること[8]や自尊心や自己イメージの低下により性被害を受けやすくなること[4]がいわれている。しかし、性の健康に関するアウトカムと自尊心や自己イメージ、自己価値との関連についてエビデンスは不足している[6]。

二分脊椎女性の 3～4 割以上が将来の恋愛、結婚、出産、育児などについて考えたことがなく、特に若い二分脊椎女性は、一般女性よりも性の問題に興味がない、あるいは考えたことのない人がやや多いと言われている[7]。これは、性に関する拒否感や恋愛、妊娠、出産へのあきらめ、異性や恋愛・結婚に関心はあるが障害があることでの消極性、一般女性に比べて恋愛や結婚、出産や育児について考える機会が少ないためと考えられている[7]。二分脊椎女性について、高校生では異性との交際の際に排泄障害等への対処方法、大学生・社会人では病気が妊娠や出産に及ぼす影響が課題として多く挙げられていた[7]。20 歳以上の二分脊椎男性では、7 割が性的関心をもっているにもかかわらず、子どもを持つことも厳しいと認識し、相手に障害について話すこと、相手に障害を理解してもらうことが恋愛をする上でのハードルとなっており、性的な関係の消極性につながっていることが示唆された[3]。また、応募者らが行った質問紙調査では、中高生の二分脊椎男性で性的なことへの関心がある者は約半数であり、関心を持ち始めた年齢は 6～15 歳であることや高校生までに学校では妊娠のしくみ、性感染症、避妊、人工妊娠中絶について半分以上の者が学んでいた。家庭では二次性徴、男女の身体の違いなどが話されていた[9]。しかし、学校でも家庭でも男女の心の違い、恋愛、性的被害、男女平等の問題といった相手との関係を築く上で役立つ学習の機会が少ないようであった[9]。

世界では、障害や疾病の有無を問わず、性に関する幅広い概念を含む包括的性教育の重要性が言われている。国際セクシュアリティ教育ガイダンス（UNESCO）では、5 歳からの性教育を推奨しており、2018 年に改訂版も出ている。日本では、性教育への取り組みが遅れており、障害者に対する国際基準の性教育への取り組みは系統的にされていない。

上記の背景から、将来的に他者とうまく性的な関係が築けるような基盤づくりを目指した、二分脊椎者への性教育が課題といえる。本研究は、小児期から二分脊椎者の特徴を踏まえたエビデンスに基づく性教育プログラムを開発することで、二分脊椎者の性の健康に寄与すると考えられる。

２．研究の目的

本研究では、二分脊椎者の特徴を踏まえた性教育プログラムを開発し、自尊心や自己価値、自己イメージを高め、性に関して心身ともに健康で、パートナーと良好な関係を築ける基盤づくりを目指した。まず、二分脊椎症者の性教育のニーズを明らかにすることを目的に調査を行った。次に、明らかになったニーズのうち、性行為に関する内容に焦点を当てて当事者に教育を行い、その効果を評価した。さらに、作成した教育動画が特別支援学校高等部での教育や二分脊椎症以外の肢体不自由や排泄障害のある高校生にも利用可能か示唆を得ることを目的に調査を行った。

３．研究の方法

（１）二分脊椎症者の性教育ニーズに関する調査

①インタビュー調査

18～40 歳未満の二分脊椎症者で、過去を思い出して話ができ、自分の考えを話せる方を対象に半構造化面接を行った。フェイスシートでは、年齢、交際経験の有無、婚姻歴の有無、身体状況を調査した。過去に受けた性教育、役立った性教育、希望する性教育、二分脊椎を踏まえた性教育の必要性を調査した。谷津[10]の質的記述的な分析方法を参考に、得られたデータについて内容別にカテゴリー化を行った。

②質問紙調査

18～40 歳未満の二分脊椎症者を対象に質問紙調査を行った。若者の性白書と国際セクシュアリティ教育ガイダンスを参考に、希望する性教育の内容 22 個を作成した。これを 8 つのキーコンセプト(Key Concept: 以下 KC)に分類した。研究協力者には、作成した選択肢のうち、してほしい性教育を複数回答で選ぶよう求めた。「KC1 人間関係」には男女の心、恋愛・交際、結婚、育児、「KC2 価値観、人権、文化、セクシュアリティ」には人権、個人の価値観

の尊重、「KC3 ジェンダーの理解」には男女の役割・男女平等、多様な性、「KC4 暴力と安全確保」にはプライベートゾーン、「KC5 健康とウェルビーイング（幸福）のためのスキル」には性についての信頼できる情報源と活用方法、性に関する支援、「KC6 人間のからだと発達」には男女のからだ、からだの清潔、二次性徴、「KC7 セクシュアリティと性的行動」には自慰、性的反応・性行為、「KC8 性と生殖に関する健康」には命の尊さ、性感染症、避妊、人工妊娠中絶、妊娠・出産、不妊と治療という選択肢を含んだ。8 つの KC と性別、年齢、水頭症の有無、身体機能、交際経験の有無について有意水準 $p<0.05$（両側）で対応のない平均の差の検定として t 検定を行った。

（2）性行為に関する教育の実践と評価

高校生～45 歳の二分脊椎症者を対象に動画で性行為に関連した教育と評価を行った。事前調査、動画の視聴、性教育前・直後・1 か月後の調査をした。調査内容は、性教育内容の知識に関する 12 項目、行動変容に関する予期 18 項目、一般性セルフ・エフィカシー尺度（General Self-Efficacy Scale: 以下 GSES）16 項目、日本語訳 Rosenberg Self-esteem Scale（RSES-J）10 項目、性に関する考えや行動の変化 1 項目、性教育の評価 5 項目であった。性教育前・直後・1 か月後の各評価指標の合計得点の変化を Friedman 検定で分析し、Friedman 検定後に算出される Bonferroni 法で調整された有意確率を多重比較として用いた。さらに、3 時点での変化に有意差が認められた評価指標について、各質問項目・属性別に Cochran Q 検定で 3 時点の変化をみた。性教育実施直後の性教育の評価、性教育実施 1 か月後に尋ねた考えや行動の変化については単純集計した。性教育実施直後の性教育に対する意見や感想ならびに性教育実施 1 か月後に尋ねた考えや行動の変化のコメントについては、類似した内容ごとにまとめ、カテゴリー化した。

（3）性行為に関する教育動画の特別支援学校高等部での活用に関する調査

二分脊椎症のある高校生に対応経験がある A 県特別支援学校 3 校の教職員を対象にオンラインでの質問紙調査を実施した。研究協力者は、YouTube で教育動画の視聴後、質問に回答した。調査内容は、基本属性、動画を学校で利用できそうか、二分脊椎症以外の肢体不自由や排泄障害のある高校生に利用できそうか、動画の改善などであった。量的データについては記述集計をし、質的データは類似した記述を統合した。

4．研究成果

（1）二分脊椎症者の性教育ニーズに関する調査

①インタビュー調査

男性 9 名、女性 5 名のデータを得た。得られた 9 カテゴリー、36 サブカテゴリーをさらに性教育の内容と性教育の方法というテーマに分けて示した。性教育の内容は 6 カテゴリー、21 サブカテゴリーであった（表 1）。性教育の方法は 3 カテゴリー、15 サブカテゴリーであった（表 2）。二分脊椎症者の性教育の内容については、【一般的な性教育と二分脊椎症を踏まえた性教育】【人間の体と発達、陰部・臀部の清潔】【人間関係】【自己・他者の尊重】【性行為と性感染症予防】【生殖と遺伝】が必要であった。性教育の方法については、【同じ病気や障害のある人との性に関する情報交換】【信頼ある人から信頼ある教育や情報を得る機会、話やすい環境】【よりよい教育・情報提供と情報活用の方法】が求められていた。

表1　性教育の内容

カテゴリー	サブカテゴリー
一般的な性教育と二分脊椎症を踏まえた内容	一般的な性教育がベースである
	二分脊椎症を踏まえた性教育があるとよい
	一般的な性教育と二分脊椎症を踏まえた性教育の両方があるとよい
人間関係	恋愛・交際・結婚について知りたい
	交際相手に病気や障害について理解を得る
	病気や障害のある人の性について一般の人にも理解してもらいたい
	異性や好意ある相手に病気や障害をカミングアウトすることが難しい
	病気や障害があることで交際や結婚に困難がある
	人間関係・コミュニケーション・男女の心について知りたい
性行為と性感染症予防	性行為の工夫や注意点について知りたい
	性感染症について知りたい
生殖と遺伝	遺伝について知りたい
	妊娠・出産について知りたい
	避妊について知りたい
	子どもを持つことを考える
	不妊・不妊治療について知りたい
人間の体と発達、陰部・臀部の清潔	陰部・臀部の清潔について知りたい
	体や性について健常者との違いを知りたい
	二次性徴や男女の体について知りたい
自己・他者の尊重	命の尊さについて知りたい
	人権・多様性・個人の価値観の尊重について知りたい

表2　性教育の方法

カテゴリー	サブカテゴリー
同じ病気や障害のある人との性に関する情報交換	同じ病気や障害の人から情報を得たい
	同じ病気の人への性に関する支援をしたい
信頼ある人から信頼ある教育や情報を得る機会、話やすい環境	身近な信頼できる医療者と性の話をしたい
	困ったとき、話したいときに気軽に相談できる環境があるとよい
	親や親戚、知人から性について相談・助言を受けて助けられた
	身近な信頼できる知人・友人と話したい
	家族・親戚から性について学んだり支援を受けたい
よりよい教育・情報提供と情報活用の方法	得た情報を参考にして自分に合わせて活用する
	インターネットをうまく活用する
	わかりやすい性教育がよい
	同性・異性のどちらと話しやすいかは人や話の内容によって異なる
	必要な時、関心のある時に教育や情報を得る
	病気や障害に合わせた対処法をみつけていく
	いろいろな形態の教育があるとよい
	早くから性教育を受けたい

②質問紙調査

男性 26 名、女性 22 名のデータを得た。全体的には「KC1 人間関係」「KC4 暴力と安全確保」は最も教育を受けたい内容であった。30 歳未満の者、30 歳以上の者と比べて「KC6 人間のからだと発達」の教育をしてほしいと希望した(p＜.01)。顕在性二分脊椎症と診断された者は、潜在性二分脊椎症と診断された者と比べて「KC2 価値観、人権、文化、セクシュアリティ」および「KC3 ジェンダーの理解」の教育を希望した(p＜.01)。おむつ・パッドの使用ありの者は、使用していない者と比べて「KC2 価値観、人権、文化、セクシュアリティ」、「KC3 ジェンダーの理解」の教育を望んだ(p＜.01)。交際経験ありの者はそうでない者と比べて、「KC3 ジェンダーの理解、「KC5 健康とウェルビーイング（幸福）のためのスキル」、「KC8 性と生殖に関する健康」の教育を希望した(p＜.05)。医療機関や患者会で当事者のニーズや年齢・発達を踏まえた性教育の実施の検討、当事者が必要な時に情報を得たり、情報交換できる方法の検討、ピア教育が有効であると考えた。

（2）性行為に関する教育の実践と評価

①性教育実施前、性教育実施直後、性教育実施 1 か月後の各評価指標の合計得点の変化

男性 20 名、女性 14 名のデータを得た。知識合計得点と性の行動変容に関する予期合計得点には、性教育実施前と性教育直後、性教育実施前と 1 か月後に有意差がみられた(p＜.01)。しかし、GSES 標準化得点と RSES-J 合計得点には有意差があるとは言えなかった。

②性教育実施前、性教育実施直後、性教育実施 1 か月後の各質問項目・属性別の変化：知識と性の行動変容に関する予期について

知識について性教育前と直後、教育前と 1 か月後の両方に有意な変化があった 6 項目は、二分脊椎症のある男性の勃起や射精の機能、性行為の意味、コンドームの素材による影響、勃起障害の治療、性行為後の注意点、性行為後の感染症状であった(p＜.05)。属性により二分脊椎症と女性の性機能、性行為前の失禁対策で有意な変化があった(p＜.05)。性の行動変容に関する予期について性教育前と直後、教育前と 1 か月後の両方に有意な変化があった 4 項目は、パートナーに自分の体の特徴や性の話をする、自分とパートナーにあった性行為を探す、適切な性感染症予防、必要時の医療機関での性行為に関連した相談であった(p＜.05)。属性により性行為によるパートナーとの良好な関係、適切な避妊方法、医療機関での相談による性行為の心配・不安の軽減や解決に有意な変化があった(p＜.05)。有意な変化がみられた知識 6 項目、行動変容に関する予期 4 項目は属性にかかわらず共通して教育意義がある内容と考えた。また、属性によって有意な変化がみられた項目は、その属性をもつ方に特に必要な教育内容であると言える。

③性に関する考えや行動の変化

14 名(41.2%)が考えや行動の変化があったと回答した。性に関する考えや行動の変化があったと回答した者のうち、11 名の具体的な変化の記載から 5 カテゴリーを得た。すべて肯定的な内容だったが、考え方の変化のみの記載であった。行動の変化にはさらなるきっかけや時間が必要だと考えた。

④性教育の評価

情報提供の理解度、方法、時間については全員が、内容については 1 名を除き、肯定的な回答であった。個別的な性教育により、男女にかかわらず羞恥心や居心地の悪さが少なく落ち着いて受講できたと考えた。また、23 名の意見・感想から 6 カテゴリーを得た。性について前向きな考えが生じていたが、情報提供の内容や方法、性に関する実際の支援に課題があった。

（3）性行為に関する教育動画の特別支援学校高等部での活用に関する調査

①学校での教材利用

13 名の教職員が回答した。学校での教材として活用できそうかという質問に対し、[性行為のマナー]、[性感染症予防]、[避妊]、[相談・受診先]について「そうだ～まあそうだ」のみの回答、[性行為前の注意点]、[性行為後の注意点]は「そうだ～どちらともいえない」のみの回答であった。これらの内容は学校で活用されやすい内容と言える。「あまりそうではない～そうではない」という回答は、[経験者の語りから]1 名(7.7%)、[二分脊椎症者の性機能] 1 名(7.7%)、[性行為の多様な形]2 名(15.4%)、[勃起障害の治療]2 名(15.4%)、[性行為時の体勢]4 名(30.8%)にあった。

②二分脊椎症以外の肢体不自由と排泄障害のある高校生への動画利用

二分脊椎症以外の肢体不自由と排泄障害のある高校生への動画が利用できそうかという質問に対し、「あまりそうではない～そうではない」という回答は[経験者の語りから]2 名(15.4%)、[二分脊椎症者の性機能]3 名(23.1%)、[性行為の多様な形]1 名(7.7%)、[性行為前の注意点]1 名(7.7%)、[勃起障害の治療]2 名(15.4%)、[性行為時の体勢]4 名(30.8%)、[性行為後の注意点]1 名(7.7%)にあった。これらの内容は、学校での教育内容とは言えない、もしくは個人の身体的状況に合わせて医療機関での教育が適切と教職員が認識したと考えられる。

③動画の改善点

4 名の回答から、二分脊椎症以外の肢体不自由や排泄障害のある高校生に対して、個別教育を行うことも念頭に、動画の分割や時間短縮、部分的な利用で本動画を活用しやすくなると考えた。

＜引用文献＞

1) 日本二分脊椎症協会編. SSK 二分脊椎（症）の手引き出生から自立まで 2014 年度版. p16, 2015.
2) 野田洋子, 足立久子, 松野智香子, 鈴木幸子, 小野敏子, 笠井由美子. 思春期から性成熟期にある二分脊椎女性の月経の経験. 岐阜看護研究会誌,5:23-32,2013.
3) 道木恭子, 小野敏子, 土居悦子, 野田洋子, 足立久子. 二分脊椎男性のセクシュアリティに関する調査報告. 日本性科学会雑誌, 34(1):67-70, 2016.
4) Streur CS, Schafer CL, Garcia VP, Quint EH, Sandberg DE, Wittmann DA. "If Everyone Else Is Having This Talk With Their Doctor, Why Am I Not Having This Talk With Mine?": The Experiences of Sexuality and Sexual Health Education of Young Women With Spina Bifida. J Sex Med. 2019 Jun; 16(6):853-859, 2019.
5) 白石晃司. 男性二分脊椎患者の性機能障害と不妊治療. 小児の脳神経, 41(2)：216-222, 2016.
6) Houtrow A, Roland M. Sexual Health and Education. Spina Bifida Association. https://www.spinabifidaassociation.org/resource/sexual-health/#introduction,更新日 2018. 12
7) 鈴木幸子, 野田洋子, 松野智香子, 足立久子. 二分脊椎女性とその親の性に対する思い. 思春期学, 32(3)：317-326, 2014.
8) Bong GW, Rovner ES. Sexual Health in Adult Men with Spina Bifida. The Scientific World JOURNAL, 7:1466-1469, 2007.
9) 笠井久美, 道木恭子. 二分脊椎男性のセクシャリティに関するアンケート調査―本人と親との比較―. 第 36 回日本二分脊椎研究会(仙台), 2019.7.
10) 谷津裕子. Start Up 質的看護研究第 2 班. 学研 メディカル秀潤社 東京, 2017; 103-154.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 Kasai K., Unno T., Fujioka H.	４．巻 40(4)
２．論文標題 Sex Education Needs of Japanese People with Spina Bifida: Relation to Participants' Demographics.	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Sexuality and Disability	６．最初と最後の頁 807-818
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s11195-022-09763-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 笠井久美，吽野智哉，松田英子，藤岡寛．	４．巻 40(1)
２．論文標題 二分脊椎症者の性教育ニーズ－当事者へのインタビューを通して－	５．発行年 2022年
３．雑誌名 日本性科学会誌	６．最初と最後の頁 25-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 笠井久美	４．巻 40(1)
２．論文標題 二分脊椎症者の性教育に関する研究動向と知見	５．発行年 2022年
３．雑誌名 思春期学	６．最初と最後の頁 175-182
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計12件（うち招待講演　0件／うち国際学会　4件）

１．発表者名 Kasai K., Unno T., Fujioka H.
２．発表標題 Educational Intervention on Sexual Activity for Japanese with Spina Bifida
３．学会等名 The 27th East Asian Forum of Nursing Scholors Conference（国際学会）
４．発表年 2024年

１．発表者名 笠井久美，中村勇，畔野智哉
２．発表標題 二分脊椎症者を対象とした性行為に関する教育動画の活用：A県特別支援学校教職員へのアンケート調査
３．学会等名 第40回日本二分脊椎研究会
４．発表年 2023年

１．発表者名 笠井久美，中村勇，伊藤正恵
２．発表標題 肢体不自由と排泄障害のある小学校低学年の児童を対象としたプライベートゾーンに関する教育動画の作成：A県特別支援学校教職員へのアンケート調査より
３．学会等名 第42回日本性科学会学術集会
４．発表年 2023年

１．発表者名 笠井久美
２．発表標題 性教育実践の効果に関する研究動向
３．学会等名 第40回日本思春期学会総会・学術集会
４．発表年 2022年

１．発表者名 笠井久美
２．発表標題 二分脊椎症者の妊娠・出産についての知見と情報提供の検討
３．学会等名 第41回日本性科学学会
４．発表年 2022年

１．発表者名 Kumi Kasai
２．発表標題 Current status of spina bifida sex education － Focusing on information, knowledge, and concerns －
３．学会等名 24the East Asian Forum of Nursing Scholars Virtual Conference, the Philippines.（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 笠井久美,畊野智哉
２．発表標題 二分脊椎者が受けた性教育とニーズ－アンケート調査の結果から－.
３．学会等名 第38回日本二分脊椎研究会，大阪 .
４．発表年 2021年

１．発表者名 Kumi Kasai, Tomoya Unno
２．発表標題 Sex Education Needs of Men with Spina Bifida.
３．学会等名 25the Congress of the World Association for Sexual Health, South Africa.（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 笠井久美
２．発表標題 二分脊椎症女性の性教育ニーズ.
３．学会等名 第40回日本性科学学会，東京.
４．発表年 2021年

１．発表者名 Kumi Kasai, Tomoya Unno, Eiko Matsuda
２．発表標題 Sex Education Needs of Japanese People with Spina Bifida.
３．学会等名 Pacific Rim International Conference on Disability & Diversity, Hawaii.（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 笠井久美
２．発表標題 二分脊椎者の性教育に関連する研究の動向
３．学会等名 第37回日本二分脊椎研究会
４．発表年 2020年

１．発表者名 笠井久美
２．発表標題 障害児の性教育に関する研究の動向
３．学会等名 第39回日本思春期学会総会・学術集会
４．発表年 2020年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関